

Title	Battle Conferenceについて
Sub Title	
Author	森岡, 敬一郎(Morioka, Keiichiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1983
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.53, No.1 (1983. 5) ,p.78- 78
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	余白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19830500-0078

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

Battle Conference に つ いて

森岡敬一郎

現今のように、ヨーロッパ史の研究が盛んとなり、対象も時代も地域も限定されるようになると、広く一般的な問題を扱う学会や学会の刊行物のみではなく、特定の時代や地域、あるいは特定の問題を取扱う学会や学会の刊行物にも注意を怠るわけには行かない。イングランドに於いても、所謂中央学会的なものばかりではなく、比較的小規模の特定問題を扱う幾つかの学会がある。その一つがここに紹介する Battle Conference である。

これは、アングロ・ノルマン時代のイングランドに関する総合的な研究集会（一時流行した言葉で言えば学際的な研究集会）で、ロンドン大学の中世教授であったし、また、城の研究と優れた概説の著者として有名な R. A. Brown を中心に一九七八年以降、毎年夏、サセックスのバトル修道院（ヘイスティングスの近く、有名なヘイスティングスの戦争の行われた地で、周知のように、ここにウィリアム一世は、戦死者の霊を慰めるために修道院を建てた）で開かれている。一応研究の主題は、地域的には、アングロ・ノルマン王国ということになっているが、スペイン、イタリア、シチリアのノルマン人の活動や、スカンデナヴィア世界との関連も取上げられていて、誠に

広い視野からアングロ・ノルマン・イングランドを眺めようとしていることが判る。勿論、研究の分野も、狭義の歴史だけではなく、建築、美術、文学、言語などに及ぶ。

研究の成果は、Proceedings of the Battle Conference として、刊行されている。現在まで、一九七八年度、一九七九年度、一九八〇年度、一九八一年度の四冊が刊行されている。現在私の手許には三冊しか持合せない。因みに、発行所は、Boydell Press で、先年来日された Brewen 氏が関係されている、極めて学術的に高度な書籍の出版所である。

この研究会の活動については、既にイギリスでは高く評価された時点で、既に History 誌上や D. R. Bates が、現在進行中の研究の成果のサマリーを知る上で極めて有益な出版物と賞讃している。特に、彼も言っているように、集会に参加しなかった者にも十分に理解出来るように書かれているので、アングロ・ノルマン・イングランドのみならず、広く Douglas の Norman Achievement (London, 1972) で取上げた問題に関心のある人々にも一見をすすめる。